

町中学生代表 広島平和記念式典へ



8月6日に開催された広島平和記念式典へ参加するため、町中学生派遣団が8月4日から6日まで広島市を訪問しました。10名の中学生が町の代表として訪問し、72年前の原爆の実相に触れ、被爆者体験談を聞き、心で感じた貴重な経験を通して、平和への誓いを新たにしました。

原爆ドームを見て

鈴木勝斗（那須中央中 3年）

原爆ドームを目の前にしたとき、言葉が失いました。写真と実物にはあまりにも大きな差がありました。まるで大きな壁が目の前にあるかのように、私は自然と引き寄せられました。建物がこれ以上ない悲惨さを語り、私はしばらく状況を飲み込めませんでした。

渋井萌笑子（那須中央中 1年）

原爆ドームを見て感じたことは、あんなに大きくてしかも石でできた建物が、一瞬であんな姿になつてしまうほど、原爆の威力がすごかったということです。世界のどの国でも建物があんな風になつてはいけないと思います。一刻も早く世界中にある核を無くしてほしいです。

平和記念資料館を訪ねて

中島葉月（那須中 3年）

私は、平和記念資料館で当時の被爆された方の写真や、爆風で原型を留めていない物などを見てきました。そのものや写真が当時の悲惨さを物語っています。もう二度とこのような悲惨なことが起こらないように、次世代へと原爆の怖さを継承していきたいです。

田中純鈴（那須中 2年）

私は、初めて平和記念資料館へ行って、原爆当時についての展示物を読んだり、たくさん写真を見たりしました。特に印象に残っているものは、被爆した三輪車やガラスびん、8時15分で止まった時計です。見ただけで苦しくなり、当時の悲惨な状況が理解できました。

被爆者体験談を聞いて

野本悠太郎（那須中 3年）

今回、被爆者体験談で國分良徳さんにお話を伺い、そのお話がとてもリアルで原爆が投下されたときの人々の苦しみや悲しみが、目をつぶれば浮かんでくるようでした。僕は、もっとたくさんの人にこの話を聞いてもらい、平和の尊さや核の恐ろしさを感じてほしいと思います。

大島彩葉（那須中央中 2年）

初めて被爆者の方にお話を伺って、被爆者の人はそのときどんな気持ちだったのかということを知りました。今まで資料などを見ていても「こんな思いだったのかな」という想像でしかなかったのが、本当の気持ちというものがわかって良かったです。

平和記念式典に参加して

中村暹稀（那須中央中 3年）

平和記念式典に参加して、人々が平和な世界を築こうとしていることを知ることができました。国や県の代表者がスピーチをし、世界中の人々が核のない世界を築くことが大切だと感じた式でした。世界には核を持った国はあるけれど、少しでも多くの核を減らす努力は必要です。

中尾くるみ（那須中 2年）

平和記念式典に参加して、私は「平和」について深く考えることができました。式典には世界各国の方々が来ていて、平和を祈っていました。黙とうの時間になると、会場が静まり返り、幸せな日常を過ごせることに感謝しなければいけないと思いました。

サブリーダーとして

大島康平（那須中央中 3年）

今回サブリーダーとして、リー

ダーの補助を3日間通してしっかりとすることができたので良かったです。とても貴重な体験をすることができて充実した3日間でした。ここで学んだことを少しでも多くの人たちに伝えられるように、これから頑張っていきたいと思っています。

リーダーとして

田代万葉（那須中央中 3年）

リーダーとして、私は9人の仲間と、戸村さん、大森さんと広島に行き、原爆について学んできました。今回、リーダーという立場で、強い行動と発言をすることができました。それができたのも9人の仲間のおかげです。この仲間たちに出会えて、本当に良かったです。

9月4日(月)から8日(金)まで、町役場町民ホール(1階)に、団員の活動報告や感想を展示します。

また、9月24日(日)に余笹川ふれあい公園で開催される那須九尾まつりでも活動内容を展示するほか、団員による活動紹介を行いますので、ぜひご来場ください。

問合せ 学校教育課

☎ 726922